



後藤滋樹の

## 新・社会楽

後藤滋樹  
goto@goto.info.waseda.ac.jp  
早稲田大学 理工学部 情報学科

## 第63回「フィードバック」

## 【鏡は重要】

人間は「万物の霊長である」と偉そうな顔をしている。しかし人間は万能ではない。明らかに弱点がある。たとえば、鏡を使わないと自分の顔を見ることができない。ギリシャ神話のナルシスの例をひくまでもなく、鏡は重要な道具である。古代日本においても、鏡が重要な器の1つとされていた。

人間の顔を鏡に映してみせるのは、現代では簡単なことだ。もっと大切なのは社会的な鏡である。つまり、人間は社会の中の自分の姿を自ら認識することができない。仕方がないから、他者の反応を通して自分の姿を間接的に認知している。これは鏡のようなものだ。

社会生活では、自分の言動に対する周囲の反応が手応えになる。もしも周囲から無視されたら、社会的な手掛かりを失ってしまう。村八分の状態に陥るのは恐ろしい。昔から現在にいたるまで、ある人を社会的に無視するのは、制裁の意味を持つ。

## 【フィードバックの欠乏】

フィードバックという言葉は、電気工学、自動制御、あるいは心理学、教育学でも広く用いられている。バックというのは、結果（出力）を参考にして原因となった行動（入力）を修正する、逆向きの制御という意味である。鏡に映った自分の顔を見て、表情を修正するのはフィードバックの一例だ。

人間が社会の反応を感じる度合いには、個人差がある。ある人は敏感に反応する。別の人は周囲の反応に鈍感である。敏感に反応する人は、周囲に影響されて疲れてしまいそうだ。しかし、敏感な人は自分の言動が周囲に受けるかどうかを感知できる。つまり周囲を楽しませて、それで自分も楽しむことができる。

興味深いのは、周囲の反応に鈍感な人である。社会的な鏡がなくては生活ができないように思われるが、実は意外に平気なのだ。つまり鏡がなくても社会生活に支障は生じない。鏡を使わないのだから、周囲の反応には依存しない。その代わりに、自分の主義主張、原理原則に忠実に生きる。いわば独立独歩の人たちである。

どちらの生き方がいいのかはよくわからない。敏感派も独立独歩路線も、それなりに社会的に意義があるのだろう。少なくとも日本では敏感派が多数を占めているように思う。独立独歩派は、多数派によって敬遠されることがある。それでも平気なのは、周囲の反応に鈍感でいられるからだ。実に社会はうまくできている。

## 【ネットワークは社会を変える】

いよいよ、インターネットが社会の神経網として浸透してきた。社会的な鏡は、他人の反応を集めたものであるから、ネットワークを経由した反応も立派な構成要素となる。しかも、ネットワークは従来の社会の反応に比べて、いくつかの優れた特徴を持っている。

まず、反応が速い。いまだに電話が高速の伝達手段で、電子メールは留守番電話のようなものだと思われている向きもあるようだが、実際には電話をかけても相手が出るとは限らない。携帯電話でもつながらないことがある。電話による会話は、相手を占有する贅沢な通信なのだ。結局、メールのほうが格段に能率がいい。筆者の分析でも、メールの返事はおおむね48時間以内に得られる。

しかもネットワークは広範囲におよぶ。メーリングリストの発言に全国から反応が集まることも珍しくはない。隣人という言葉は、ネットワークの力で空間を超えている。

もちろん、現在のネットワークには短所もあり、解決すべき課題も山のようにある。それでも社会的な力を持つようになってきているのは事実である。この影響力が今後とも増大していくのは間違いない。

## 【人間とは社会のこと】

私はコンピュータ・サイエンスを専門にしている。いわゆる計算機屋である。若いころには人工知能の研究に従事していた。これは計算機に人間の代わりに務めさせようという計画だ。人工知能は、ある程度まで実用化

されている。しかし究極の目標までは、まだ相当の距離がある。

コンピュータ・ネットワークは計算機の新しい使用法を示している。ネットワークに直接つながれているのは計算機であるが、それを使うのは人間だ。人間を中心に見ると、計算機が人間と人間との仲介役を務めている。このような計算機の活用法がインターネットである。

人間と人間との付き合いの中に、わざわざ計算機を介在させなくてもいいと思われるかもしれないが、人間=計算機=人間という図式は、とても有効であることが明確にわかってきた。このインターネット型の仕組みが、人間社会を変えつつある。つまり高度なフィードバック社会が実現する。

考えてみれば「人間」という言葉はおもしろい。人間と読めば、社会のことを意味する。実際に「人間」を辞書で引くと、世間という意味がある。つまり社会のことだ。インターネットは、人間=ネットワーク=人間と考えることができる。これを漢字で書くと、人間人という感じだろうか。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)